

2020 年度秋学期終了にあたって

2020 年度は新型コロナウイルスに翻弄された 1 年でした。最終学年の学生の皆さんにとっては、学生生活最後の 1 年であり、大学生活の集大成の 1 年が正に新型コロナで翻弄されてしまったことは痛恨の極みであったと思います。また、1 年生の皆さんは希望に胸膨らませ入学されたにも拘わらず、入学式もなく、キャンパスでの出会いや交流の機会が大きく制約されてしまい、大きなショックであったことでしょう。

新型コロナ禍が大学にもたらした大きな変化は、対面での授業から IT 環境を利用した遠隔授業でした。学生の皆さんはもとより、教員にとっても新たな挑戦でありましたが、その利点と可能性は、世界全体の社会構造を大きく変えようとしています。これからの大学教育の在り方も大きく変わることとなりましょう。

このように新型コロナ禍によって変わらなければならなかったことを、ネガティブだけに考えるのではなく、今まで経験したことのない未曾有の危機に対して、皆が一丸となって乗り越えるというポジティブな考え方を持つことは、とても大切なことではないでしょうか。皆さんは今後新しい世界を切り拓いていかなければなりません。皆さんに降りかかるかもしれない試練を乗り越えることも必要になるでしょう。今回の未曾有の経験を次に活かせるよう私たちと一緒に取り組んでまいりましょう。

2 月に入り最終学年の学生の皆さん以外は春休みとなります。今年 1 月に発出された緊急事態宣言も 1 か月延長となり、私たちは少しも気を休ませることができない状況が続いています。在学生の皆さんにとっては、課外活動などを通して色々と指導してくれた先輩が社会に巣立つ時期です。いつもならば賑やかに先輩を送り出すことができましたが、今年はそれもかないません。新型コロナウイルスとの戦いはまだまだ続くことと思います。学生の皆さん一人ひとりが高い志を持ち、責任ある行動をとることが感染拡大を防ぎ、感染予防となります。私たちの責任ある行動が感染症の収束につながることであります。

学生の皆さんには不自由な生活が続いておりますが、いましばらくの辛抱です。これからの未来のために一丸となってこの危機を乗り越えていきましょう。

愛知学院大学
愛知学院大学短期大学部
学長 引田 弘道